

お酒飲まないのに脂肪肝？ 肥満が無いのに脂肪肝？

・・・NAFLD(非アルコール性脂肪肝)や NASH(非アルコール性脂肪肝炎)について

健診・ドックを受診された際度々耳にする、「脂肪肝」。そもそも「脂肪肝」とはどのようなものでしょうか？

定義的には、5%以上の肝細胞に脂肪が沈着している状態を示します。近年は、NAFLD(nonalcoholic fatty liver disease)や NASH(nonalcoholic steatohepatitis)という病態例が確認されています。NASH は NAFLD のうち、病的意義のある脂肪肝で、採血データで AST、ALT、 γ -GTP などの上昇を認めます。飲酒、肥満等の要因が無いにも関わらず γ -GTP などの値が上昇し、健診・人間ドックなどでも、「飲酒もしていないのに何で肝機能が上昇しているのだろう？」「肥満でもないのに何で肝機能高いのだろう？」というご経験をされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

一昔前までは、脂肪肝＝アルコール多飲、という概念が一般的でした。しかし近年では健診・人間ドックの普及により非飲酒者および非肥満者の肝障害、脂肪肝もクローズアップされるようになりました。

我が国の NAFLD の頻度は、肥満人口の急増を受けて 20~40%と国民病となりました。NASH は組織診断所見で診断されるため、一般人口の有病率は不明ですが、NAFLD の 10~20%が NASH ですので、その有病率は 2%~8%と推定されます。慢性肝疾患の病的検討では、NAFLD/NASH は全肝硬変の 5.8%(2018 年)、肝細胞癌では 4.3%(2019 年)と報告されています。

ウイルス性肝炎が抑圧されつつある現在、NAFLD/NASH は今後、肝硬変、肝細胞癌の主な原因疾患になると予想されています。アルコール性肝障害等と同様に、諸々の精査を受ける必要性が大きいのではないかと思われます。

(文責：医師 泉 浩之)